

富士市SDGsの課題と取り組み



10 人や国の不平等をなくそう



目標 10

国内および国家間の
不平等を是正する

富士市の課題

車いすを利用する人が、富士山や工場夜景に興味を持って、富士市を訪れようとしても、鉄道駅にエレベーターが整備されていなかったり、ホテルには車いすを利用する人が泊まれる部屋が少なく、訪れることを諦めなければならないことがあります。このような状態は、車いすを利用する障害のある方や高齢者だけでなく、ベビーカーを使う人にも不便といえます。

また、公共施設でも、スロープ設置などのバリアフリー化が十分進んでいないと、車いすを使う人にはバリア(障害)になってしまいます。このような状態は、運動会などの学校行事を見に行きたい時、地域の車いすを利用する障害のある方や高齢者の方が、地震や台風などの災害時の避難所として公共施設を利用するときなどにもバリア(障害)になってしまいます。



バリアフリーに配慮したグレーチング蓋のイメージ

富士市の取り組み

これまで水害や地震が起こった時、多くの高齢者や障害のある方等が逃げるができずに被害に遭っています。このため、富士市は、県内の市町に先駆けて、静岡県が実施する「個別避難計画」モデル事業に取り組んでいます。「個別避難計画」は、災害時に避難の支援が必要な高齢者や障害のある方ごとに、地域の人や福祉専門職・市役所が協力し、避難の支援方法や避難先の確認、ご近所の人など災害時の避難支援者を決めるための話し合いを行い、これらを記載した計画を作り、日頃の防災訓練で確認し災害時に実践できるようにするものです。大雨時など刻々と状況が変化する時や大きな災害発生直後の緊急の対応が必要な場面では様々なことが求められますが、ひとりではなかなか行動に移すことができない方々にとって、地域の方が声掛けたり一緒に避難してくれるような個別の避難計画というものがあると非常に安心して暮らすことができます。

また、「富士市バリアフリーマスタープラン」策定を進めており、施設整備等のハード面と併せて、ソフト面における取り組みとして、高齢者、障害のある方等への理解を促す「心のバリアフリー」を推進していくこととしています。

学校でも新しく校舎を建て替える時などや、大規模な工事をする時などには、バリアフリー化が進むように取り組んでいます。



自立生活センター富士 代表
富士市障害者自立支援協議会
地域生活部会 部会長 同協議会 元会長

望月 亜矢子

どんなに重い障害があっても、自分らしく地域の中で主体的に楽しく生活するをコンセプトに、個別相談や講演活動などの他、バス会社との意見交換会やバリアフリーチェック、地域イベントへの参加など啓発活動・権利擁護活動を行っています。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS